



今、なぜ日本神話の絵本なのか？

幸せの国の幸せの子供の話 ～日本神話～

補 説

教育の拠り所策定委員会

社会の荒廃は家庭教育にあった

昨今の社会の荒廃ぶりは目に余るものがあります。原因はひとつではありませんが、大きな要因として子供に対する教育があげられます。

個（自分自身）を重視した親が、自分の時間を大切にしたいがために子育てを効率化する一方、欲しいものは欲しいだけ与えるという子供中心主義により、我慢ができない人間に育ってしまった結果であり、親を親と思えない、人を人と思えない人間に育った結果でしょう。これは、人格を形成するかけがえのない場、「家庭教育」が崩壊した証拠と言えます。

そんな中、平成 18（2006）年 12 月 15 日に教育基本法が改正されました。

新しい基本法では、第 2 条（教育の目標）には「豊かな情操と道徳心を培う」「公共の精神」「伝統と文化を尊重し、それらを育んできたわが国と郷土を愛する」、第 10 条（家庭教育）には「父母その他の保護者は子の教育について第一義的責任を有する」と明記され、国や地方自治体に対しては「保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるように」と付記されました。

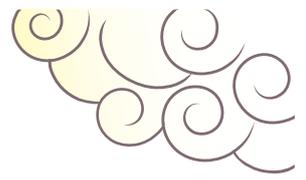
つまり、教育の目標を個から公に軸を移すと共に、学校や教師が担う狭義の教育ではなく、家庭や地域をも含んだ広義の教育について謳われるようになったのです。

それだけ家庭や地域での教育は重要だと国も示したわけです。

親学が家庭教育を再生させる

しかし、情動の育成が大切だ、そのためには家庭や地域の教育が重要だと理解しているだけで、ましてや国を愛する態度を養うと法律で決めただけで、子供達がそうなるわけでも、家庭教育が見直されるわけでもありません。なぜなら荒廃した社会を救うはずの家庭教育が崩壊しているからです。家庭教育の根底は「愛」です。その愛し方に偏りがあるのです。「しっかり抱いて、そっと降ろして、歩かせる」。日本人の子育ての知恵を凝縮させたこの言葉を見ても、どこまで抱いて、いつ降ろし、いつから一人で歩かせるのが良いのかわからない。これは、親子の関係が崩れてしまい、親が親としての自覚を深めていないことが原因です。

そこで生まれたのが「親学」です。2001 年全世界的に始まり、日本でも同年に親学会が誕生しました。親が親として育ち、子供をどのように育てるのかを学ぶ親学は、自覚のない親に育てられた子供が成長し、家庭をもち始める今後、さらに必要とされるでしょう。



脳のしくみを理解して育む

家庭教育において、まず、男女で脳の違いがあることを知っておきましょう。共感する能力は女性が、システム化する能力は男性が優位であり、道徳観の基は、女性は「優しさ」、男性は「正しさ」となります。子供にはこの2つをバランス良く教えることが大切です。母性的かかわりで他人と共感することを教え、父性的かかわりを通して子供に対してルールや善悪を教えるのです。

次に、脳には「臨界期」があることも知っておきましょう。脳は、ある時期までに教育・刺激をしなければ発達に支障をきたします。そのある時期のことを脳の臨界期と言い、多くは2歳から3歳までとされています。臨界期までに理性を司り、人間脳とも称される前頭前野を刺激し、自己抑制を教えることが大切です。前頭前野が発育しなければ我慢や忍耐ができない、いわゆる「キレやすい子」になります。そうならないためには、第一次反抗期（3歳前後）を迎えるまでに、ある程度我慢を経験させ、自己抑制力の基本トレーニングを完了させることです。

尚、人間脳のみならず脳全体の発育には、本の読み聞かせなど親からの働きかけが最も良いとされています。子供と積極的に触れ合い、語りかけましょう。

臨界期と各能力

●視力の臨界期

生後から2～3歳までの間に眼帯を長期的にした場合、機能的障害はなくとも視力が全くなくなる。

●言語の臨界期

1920年インドで狼に育てられ、8歳の時に発見された少女は、その後死ぬまでの9年間人間に育てられたが、言語は4年目に6語、7年目に40語、9年目で3歳幼児程度の会話しかできなかった。ちなみに、少女は、普段は二足歩行ができたが、走る時は4本足に戻った。運動機能も含め人間として育つ能力すべてに臨界期があると考えられる。

●絆の臨界期

テレビに子守を任せる、そっぽを向いて哺乳瓶で授乳する、0歳保育、など母親との接点不足から、表情のない物静かな赤ちゃん「サイレント・ベビー」が増えた。自分の欲求や願望を無視され、あきらめた子供はコミュニケーション力が発達せず、引きこもりなど様々な心のトラブルを引き起こす可能性がある。乳児にとって、脳を活性化し発育を促す母親との触れ合い、母親からの語りかけは不可欠である。

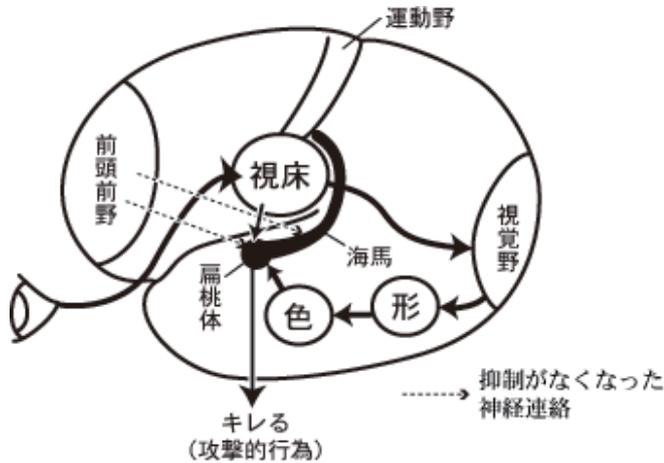
脳脳の退化の原因

●ゲーム

幼児期からゲームを1日2～4時間、10年続けると脳の活動は退化し、表情はなくなり、キレやすくなる。友人とボール遊びをするのとは違い、画像情報を脳で処理するだけのゲームでは、脳内で使われる回路が単純化するためである。

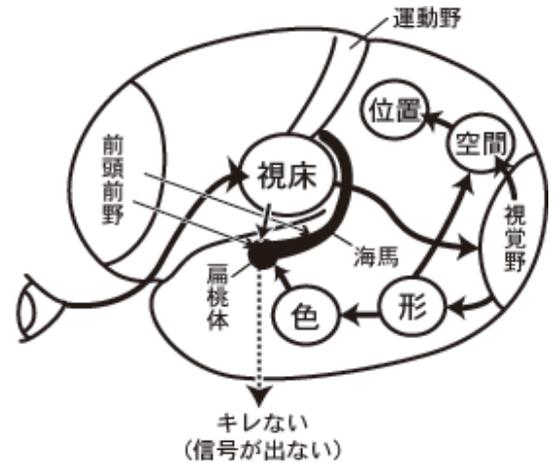
前頭連合野

理性、注意、思考、意欲、情動を行動に変換したり、人間らしさや道徳といった高次の内容を処理する場所です。ここに障害があると、注意散漫になり、意識を集中させることができなくなります。自発的な行動が減り、何事にも無関心になってしまい、ただ生きているだけといった状態になってしまいます。



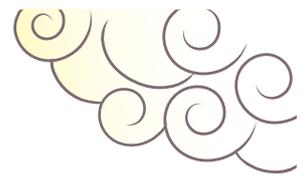
キレたときの脳のなか

扁桃体などの古い脳に対する前頭前野からの抑制がなくなり、視床－扁桃体からの攻撃的行為が起こる



激情の抑制

扁桃体からの突発的な行動が、前頭前野からの抑制信号によって、常に抑えられている



読み聞かせがコミュニケーション力を育む

ヒトは二足直立歩行のため骨盤が小さくなり、生理的早産で誕生するようになったため、自然界で生活できるようになる6歳までは子育ての手が必要な動物だと言われます。

6歳までと言うと、家庭が主な教育の場。2歳と言われる情動の臨界期を考えると、胎児の間から2歳までの家庭での教育が、子供の未来を決めるといっても過言ではありません。

情動を育むのに最も適した手段は、触れ合いと語りかけです。情動の次に感情と感性が発育します。幼児は、体験したこと、感じたこと、思いなどに言葉をなぞり、少しずつ組み立て、声に出し、伝えようとします。多くの体験と多くの言葉を学ぶことによって、自分の心の中で、考えをまとめることが出来るのです。語彙の豊富さが、思慮深い人を作り、コミュニケーション力を高めるのです。良いコミュニケーションには、正しい日本語で語る必要があるのは言うまでもありません。

そこで有効なのが、絵本の読み聞かせです。本には、普段話し言葉では使わない単語が多く出てきます。読み聞かせることで、想像力が膨らみ、感性豊かな心を育むこともできるのです。

日本神話の絵本が社会を救う

0歳からの読み聞かせ絵本として最も適したものは、「日本神話」です。口頭伝承されてきた日本神話は、音のリズムが良く、その世界に容易に引き込まれること、祖先がどのように国土を創り、人間の叡智と勇気でどのように社会を築いてきたかを描いた物語であることが理由です。

あめのみなかぬし様に始まる神々は、非常に人間的で、感情豊かに笑い、泣き、怒り、悲しみます。夫婦は男女が担う役割をしっかりと果たし、言うことを聞かない子には父親が厳しく叱り、つらい時には母親が救いの手を差し伸べ、困った時には皆で相談します。家庭や社会における和の大切さや「親学」に通じるメッセージと子育てのヒントがちりばめられているのです。

そればかりか日本の歴史、伝統、文化はもとより、自然を含めた命の尊さ、祖先を敬う心、全ての事象の調和などの宗教的情操、日本人のアイデンティティの源である和の心、倫理、道德観、叡智もふんだんに盛り込まれているのです。「日本神話」はまさに子育ての教科書なのです。

教基法改正に伴い、小学校の学習指導要領には、小学1年生には「神話の読み聞かせ」が、小学6年生には「神話の研究」が加えられ、平成23(2011)年度から実施されることになりました。

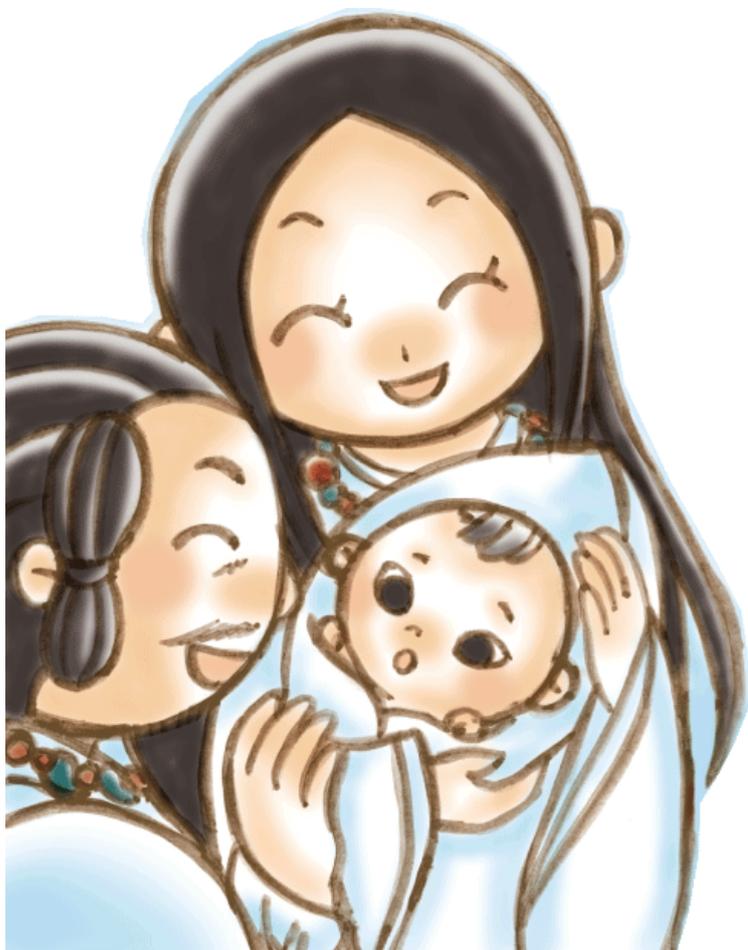
神話によって、小さな我が子を愛する心が芽生え、家族愛が育ち、家族同士のつながりが地域愛、郷土愛へと成長し、やがて我が国を愛する大きな力となり、日本は「幸せの国」になることでしょう。

だから今、日本神話の絵本なのです。



読み聞かせのルール

- ① ゆっくり正確に読みましょう。
勝手な解説、アドリブは入れず、絵本のメッセージをそのまま伝えることが大切です。
- ② 途中で子供からの質問は
受けないようにしましょう。
勝手な解説、アドリブは入れず、絵本のメッセージをそのまま伝えることが大切です。
- ③ 子供に好きな絵本を選ばせ、
何度も読み聞かせてあげましょう。
興味を持たせることが何よりも大切なポイントです。
- ④ 絵本の理解は子供に任せましょう。
その時々での自由な解釈、
感想が情動の発育につながります。
- ⑤ 本に、難しい、簡単という感覚は不要です。
子供自身に音読させることで
教育効果はさらに高まります。



参考文献『その子育ては科学的に間違っています』
(國米欣明著・三一書房発行)